

「あかちゃんのうた」(童心社)

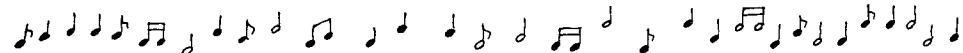
松谷みよ子 ぶん いわさきちひろ え

子守り唄は忘れられていませんか?きちんと受け継がれていますか?

子守り唄などは生まれたばかりの赤ちゃんにとって物語の世界に入る第一歩だと思えます。赤ちゃんを寝かしつけるとき、「ねんねんころりま」と唄ってあげていたと思います。地方によって詩も少しずつ変わっていきます。それはその地方の独特の風習が唄に表われているからです。しかし、こういったものこそ子どもたちに受け継いでいきたいものです。

同じ松谷みよ子さんの本で、偕成社からも「松谷みよ子あかちゃんのわらべうたシリーズ」も出版されています。みなさんが小さいときに聞いたことのある唄遊びの中で使っていた唄がきっと蘇ってくるでしょう。

「さよなら三角またきて四角 四角は豆腐 豆腐は白い 白いはうさぎ うさぎははねる…」という遊び唄もありましたが、あかちゃんのわらべうたシリーズの中では、また少し違った唄になっています。ふと気がつくといかずさんでしまっていたあの唄この唄、いま一度子どもたちと一緒に楽しんでください。



第77回読書会 「西の魔女が死んだ」 梨木香步 著 (檢出版 ほか)

3月18日(日) 午後2:00~ 於・白根学習館ルーム2

魔女って本当はどんな人なんだろう?そもそも本当にいるのだろうか?

この物語を読むと、魔女はまったく人間と変わりほしないことに気がきます。そう、みなさんの身近にも魔女はいるのかもしれないよ!?

4月から、ブックバスの停車時間・場所が変更になります。よくお確かめのうえ借りに来てください。時間・場所等詳しくは、しろね図書館だより、南区役所だより みなみ風 きご覧ください。

3月の行事 ブックバス

3 (土) おはなし会 3:00~		16 (金)		白井中 2:55~(3:35) 白井小 14:00~(5:45)
7 (水) 絵本のじかん 3:00~	根岸小 13:10~(3:50) 大鷲小 14:30~(5:45)	17 (土) おはなし会 3:00~		大通地C 14:30~(5:00) 根岸農公 15:30~(6:00)
8 (木)	白根北中 13:10~(4:00) 大通小 14:30~(6:30)	18 (日) 第77回読書会 2:00~		
9 (金)	小林小 10:10~(10:40) 白根小 13:00~(3:50)	21 (水) 絵本のじかん 3:00~		
10 (土) おはなしが例会 10:00~ おはなし会 3:00~	新飯田農公 14:30~(5:00) 戸石公 15:30~(6:00)	24 (土) おはなしが例会 10:00~ おはなし会 3:00~		
14 (水) 第46回 絵本のじかん 3:00~	新飯田小 12:35~(3:20) 大鷲根小 13:35~(4:35)	25 (日) 雑誌リサイクル		
15 (木)	白井中 12:55~(3:35) 庄瀬地C 14:00~(4:40) 庄瀬小 15:00~(5:45)	28 (水) 絵本のじかん 3:00~		



しろね図書館だより

No. 82

発行 新潟市立白根図書館

平成19年3月1日

❁ 今月の展示架テーマ 「桜の暮らし」

今年の冬は昨年と打って変わって、ほとんど雪が積もらずに3月を迎えました。少しずつ地球が壊れていっている気がします。いや、すでに壊れてしまっているのかもしれない。

地球が生まれてから約46億年。ホモ・サピエンス(新人)が登場してからほんの15万年から20万年。そのうちのほんの少しの期間にヒトは急速に文明を飛躍させてきました。日本では文明開化から教えるとまだたったの150年くらいしか経っていません。この短い期間にヒトは自らの豊かさや便利さを追求してきました。しかし、その代償として長期的で大規模な乱れをも作ってしまいました。地球温暖化・異常気象・海面上昇・森林伐採・砂漠化・酸性雨・土壌汚染・水質汚濁・大気汚染・有害廃棄物・エネルギー問題・環境ホルモン・生態系の破壊... 今叫ばれている問題を一つ一つ挙げればきりがありません。地球の温暖化によって極地方の氷が溶け、海面が上昇する。海拔の低い陸地は海中に沈み、そこで生活していた生物の生態系は破壊される。というように一つの問題が連鎖的に次の問題を引き起こしています。地球上のすべてのものは食物連鎖と同じようにつながっているのです。

私たちはこれらの問題を少しでも回復しなければなりません。未来の子どもたちのためにも日々の生活において、もっと考え直さなければなりません。

2月の

来館者 ----- 8,176人(14人含) (視察・見学)
貸出冊数 ----- 10,594冊
予約件数 ----- 112件

お待たせしました。今月からブックバスの運行を再開します。

リクエスト情報 (しばらくお待ち下さい)

- 1位 陰日向に咲く (6名)
- ハリ・ポッターと謎のプリンス 上下
- 3位 名もなき毒 (3名)
- 4位 風が強く吹いている (2名)

蔵書点検に伴う休館、みなさんには大変ご迷惑をおかけしました。蔵書点検終了時点でのしろね図書館の蔵書冊(点)数は、125,248冊(点)です。

内訳 一般書 72,713冊 郷土資料 4,364冊
ティーン 8,199冊 児童 35,526冊
AV資料 2,018点 その他 2,428冊



『アイアンマン』 トライアスロンにかけた17歳の青春
クリス・クラッチャー作 金原瑞人・西田登共訳 ポプラ社

ボーリガード・ブルースターは、アメリカのワシントン州にある小さな町に住む高校生。州のトライアスロンレースに出場するため、毎日過酷なトレーニングを続けている。

トライアスロンはスイム（水泳）とバイク（自転車）とラン（長距離走）、三種目の総合で争うレースで、彼が参加するのは、ユーコン・ジャックという特にハードな大会。勝つためには相当な努力が必要なのだが、彼は練習にだけ集中できない。なぜなら、英語教師レドモンドに反抗したため、停学一歩手前になってしまう。

そんな彼の救済策は、ナカタニ先生が担当するアンガー・マネジメントグループに参加すること。学校の問題児達が集まる、怒りをコントロールするグループカウンセリングだ。

どうして彼はレドモンドにキレてしまったのか？そして彼のレースの行方は？差別やDV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待や暴力など心に傷を負ったり、さまざまなドラブルを抱えたメンバー達は、だんだんと自分の事を語り、互いを理解し心を開いていく。そしてこの苦しい状況を打開しようと必死に戦っている。

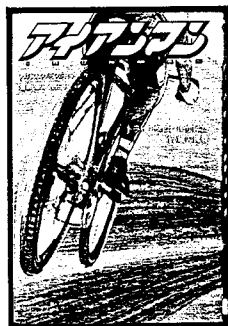
登場人物達の残酷な状況は、辛く悲しかったり、時に怒りを感じるのだが、それでもこの小説は私達に生きるパワーを、そして希望を与えてくれるのだ。

著者のクリス・クラッチャー氏は、教師・セラピストの経験を持ち、彼の全作品が全米図書館協会のヤングアダルトベストブックに選ばれたという実力派。訳者の金原瑞人氏も、現代アメリカ作家の中で、今最も注目をしているという。日本で出版されているのは、まだこれと『ホエール・トーク』（青山出版社発行）の2冊のみ。他の作品も翻訳され、出版されるのが待ち遠しい。

スポーツが好きな人もそうでない人も、とにかく読んでみてください。出会えて良かったと心から思える本です。

(司書 中川沙穂里)

☆おまけ☆
『ホエール・トーク』の紹介が載っています。



第76回 読書会

平成19年2月11日(日)

午前10時～ 参加者6名

『兎の眼』 (理論社 ほか)

灰谷 健次郎 著

◆ あらすじ ◆

この物語は、新米教師の小谷先生と、祖父と二人で暮らしている小学生の鉄三を中心に進んでいきます。はじめは無口な鉄三の行動や気持ちが変わらず悩む小谷先生ですが、次第に鉄三を理解し、それとともに鉄三も小谷先生も変わっていきます。さまざまな出来事が起こるなか、町の計画によって鉄三たちの住宅の移転問題がもちあがります…。

◆ 参加者感想 ◆ ◆ ◆

○ この本が出版された頃に読んだ。その時と読んだ感じが違った。でも学校はいまも変わらないかと、泣きそうになりながら読んだ。
○ これを読んで泣いた。はじめて読んだが「自分の子が小さい頃に読めば良かった」とも思ったし、「今だからわかる」と

も思った。

○ 自分の子の昔の担任を思い出し、そっくりだと思った。その頃これを読んでいたら、その先生のしたかったことがわかったのと思った。

○ はじめて読んだ。自分の子ども時代や自分の子どものこと、どんな風になっているのかなあ、と思いながら読んだ。

○ 一カ月だけの転校生みな子の登場で、物語ではみんなはどうしようか考えるが、今の子どもはどうなんだろうかと考えた。

○ 小谷先生と旦那さんとの微妙なずれ。昔でそういう時代だから旦那さんの姿が印象的だ。

○ 子どもの頃一度読んだ。その時は兎の話だと思って読み始めた。題名は小谷先生が泣いて目が真っ赤だからだと思っていて、今回読み直して「善財童子」に気づいた。

○ 本当は小谷先生や足立先生のような先生はいっぱいいたと思う。学校の先生だけでなく、親にも子どもにも読んでほしい。

○ 単なる知識の吸収だけでなく、先生と生徒のふれあい的大事。子どもの成長に感銘を受けた。

○ 子ども達の目がするどい。先生をみてい

る。

○ かわいがっている犬が野犬狩りで捕まった時の子ども達の知恵、生きていく力はすごい。

○ 足立先生の作文の書き方はよかった。家で自分の子に教えるときにも参考になると思った。

○ 「裏切った者の方がつらがるう」や「おにいちゃんの命をたべておおくくなった」という言葉で泣いた。人間は動植物の命を食べて生きているというだけでなく、戦争での犠牲者の命も…、ということに気づかされた。

○ 「人間が美しくあるために抵抗を…」の部分が好き。この物語全体のことを言っているのかも。

…などなど、たくさん感想がありました。

* * * * *
* 次回読書会

* 3月18日(日)午後2時

* 『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩 著

* (楡出版ほか)

* 本はカウンターで用意しています。

* みなさんの参加をお待ちしています。

* * * * *

(内山 香)